



TITLE:

女眞國

AUTHOR(S):

今西, 春秋

---

CITATION:

今西, 春秋. 女眞國. 東洋史研究 1935, 1(2): 168-168

ISSUE DATE:

1935-12-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/138673>

RIGHT:

## 女眞國

例の吾妻鏡の女眞文字を先頃稻葉君山博士が「女眞國の萬戸溫」と讀まれた（青丘學叢第九號）吾妻鏡女眞字の眞研究のに對し、秋山謙藏氏は「元來女眞とは一つの民族名であつて、國名ではない。金に對しても、蒲鮮萬奴の建てた大眞に於ても同様である。吾妻鏡に見える女眞文字の銘文を注してある銀簡の附いた帶をつけて、外國人が我國に來航した頃は、正に東眞國と呼ばれてゐた時期である。女眞人自ら「女眞國」と云ふ表現を以てしたとは如何しても考へられない。稻葉博士の解はどうかと思ふ。」との意を表明されたが、（日支交渉史話——女眞船の來航と華夷譯語——）清初には立派に「女眞國」といふ稱號が存在した。建州が自らを稱して**ヂュシエン・グルン**と云つたことは、滿文老檔に頻々として見えてゐる。而も彼等は一方同時に、建州國及び金國の稱號を立てゝゐる。女眞人自らは「女眞國」と云ふ表現を以てしないとは言へまいし、又東眞國だとして或ひは**ヂュシエン・グルン**を稱へたことが無かつたとも限るまい。稻葉博士の女眞文字解が全く正しいか、どうかは知らないが、秋山氏の説も亦贅し難い所以である。（今西春秋）